



## 入隊熱望者に対する部隊見学実施

自衛隊埼玉地方協力本部（本部長 山下 1佐）は8月2日、航空自衛隊入間基地において、受験予定者に対する航空救難団の部隊見学及び救難員との懇談を実施した。

本見学は救難団にあこがれを持つ学生達からの強い要望を受け、実際に職場の雰囲気や職場環境を確認するとともに、現場の隊員の生の声を聞き、働くイメージを深化させることを目的として行った。

部隊見学は始めにヘリパイロットから救難団の概要や活動などの説明を受け、その後、輸送ヘリコプター内の見学を実施した。その際、実際のパイロットからの話や実機の見学を通じて更なる理解を得た。

その後、救難団本部の教場に移動し、約1時間救難員（メディック）との懇談を実施した。

学生達は事前に用意した質問を救難員に遠慮なく聞き、救難員もしつかりと一つ一つ丁寧に答えていた。

本見学終了後、学生達から「実際に現場を直接見学できたことで、自衛隊のやりがいや大変さ、カッコ良さを再確認出来た。是非とも今年度の防大、航空学生、曹候補生の受験をしたい。」との感想も聞かれ、受験意識も大きく高まった。

今後、埼玉地方協力本部は、学生等の要望については全力で協力していくとしている。



## 合同企業説明会で予備自衛官等制度を紹介

自衛隊埼玉地方協力本部（本部長 山下真司一等空佐）は、令和三年八月十九日（木）及び同月二十日（金）、東京流通センター（東京都大田区）で開催された「令和三年度首都圏任期制隊員合同企業説明会」において、同説明会に参加した現役任期制隊員に対し、予備自衛官等制度を紹介した。

合同企業説明会には、任期満了で自衛官を退職し、民間企業に再就職する隊員及び退職自衛官の雇用を希望する企業延べ四百十社が参加していた。

埼玉地本は、先述した隊員に予備自衛官等制度について理解を深めてもらうために同会場に説明ブースを設置していた。

今回は、令和四年三月から同年九月までの間に任期満了を迎える隊員十七名（うち女性二名）に対し、予備自衛官制度、招集訓練の概要及び埼玉地本に所属する予備自衛官等が従事した令和元年台風第十九号等の災害派遣活動の写真を使用して説明した。

また合わせて採用後の処遇及び雇用企業に対する給付金に関し、懇切丁寧に説明したところ、任期制隊員は熱心に聞き、活発に質問をしていた。

質問をした任期制隊員の一人は、予備自衛官に採用された初年度は一日間招集訓練に出頭し、新しい生活環境に慣れ、勤務先の同意を得て、次年度以降は即応予備自衛官に是非志願したいと感想を述べた。

埼玉地本では、方面総監部から示された予備自衛官の充足目標及び即応予備自衛官の新規採用目標を達成するため、今後も予備自衛官等の多くの志願者確保に向け、あらゆる機会を通じて、予備自衛官等の募集活動をしていくとしている。

